慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	外国人学習者は日本語文法の何が知りたいか： 日本事情クラスを通して
Sub Title	
Author	市川, 保子(Ichikawa, Yasuko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2014
Jtitle	日本語と日本語教育 No.42 (2014. 3) ,p.83- 112
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20140300-0083

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』42：83-112（2014.3）

外国人学習者は日本語文法の何が知りたいか

―日本事情クラスを通して―

市　川　保　子

1.　はじめに

本小論は、2007 年春学期から 2013 年春学期までの「日本事情」クラス（日本語の文法）で見えてきた学習者[1)]の日本語文法に対する疑問、とらえ方、意識についてまとめたものである。

2.　日本事情クラスの概要

当クラスは外国人学習者が将来日本語を教えることも視野に入れ、自らが自分の日本語文法の知識を整理し、どのように提示していくのがよいかを考えるための週 1 回 1 コマのクラスである。

使用教材は市川（2005）『初級日本語文法の教え方とポイント』を用いた。毎週の課題として、次週に学習する課（「文法項目」）を読み、疑問点（質問点）を 1～2 行にまとめて、筆者にメールで送るように指示した。質問は通常一つでよいので、この課題は「ワンポイント・クエスチョン」と呼んだ。学習者の質問は、翌週の授業で取り上げ、いろいろな角度からディスカッションを行った。2007 年春学期から 2013 年春学期までの 12 学期約 113 名[2)]の「日本事情」クラスで出た「ワンポイント・クエスチョン」の提示・分析が本小論の中心になる。

3. 学習者の困難項目

12 学期中で学習希望の多かった項目は、「敬語」（7 学期）で、「使役」（6 学期）、「そうだ・ようだ・らしい」（5 学期）、「自動詞・他動詞」、「受身」、「の（ん）だ」、「はずだ・わけだ」（各 4 学期）がそれに続く[3)]。本小論では、その中から「の（ん）だ」「自動詞・他動詞」「受身」「使役」「敬語」を取り上げる。

4. ワンポイントクエスチョンの実際

本小論では、「の（ん）だ」「自動詞・他動詞」「受身」「使役」「敬語」の 5 つの項目に対する学習者の質問を取り上げ、考察する。各項目のワンポイント・クエスチョンは質問の種類ごとに分類した。紙面の関係で、似たような質問は 1、2 を選んで他は削除した。また、学習者の質問文については、質問の趣旨を損なわない形で筆者が全面的に書き直した。各質問の後ろには学習者の国籍を頭文字で示してある[4)]。

「考察」には視点というとらえ方を取り入れる。5 つの項目に共通するのは、話し手の視点がどこにあるかが理解のキーポイントになると考えられるからである。視点には視線の出発点を意味する場合と、到達点（注視点）を意味する場合があるが、本小論では後者の場合を中心に考える。話し手が何に注目し（視点を置き）、どうとらえ、そして、どう伝えるかの観点から考察、および、指導の提言を行う。

4.1 の（ん）だ

日本語では「どうしましたか」とも「どうしたんですか」とも言い、また、「きのうから熱がある」とも「きのうから熱があるのだ」とも言う。この「んだ」または「のだ」（本小論で「の（ん）だ」と表記する）は日常生活でよく使われるために、日本語のテキストでも学習時期を早くしようという傾向があった。一方で、使い方によっては主張が強すぎたり、押し付け

がましい印象を与えたりするため、習得には難しい項目であり、学習者の質問からもそれが伺える。

4.1.1　学習者の質問　（ 1）2）・・（太字）は質問の分類・種類を、（1）（2）は質問を示す。必要に応じて下線を施す。）

1）「の（ん）だ」の使い方が分からない。

（1）　私は高校 2 年の時、「の（ん）だ」を使い過ぎる傾向があったため、先生に何度も注意された。そのため、その時から「の（ん）だ」を使わなくなった。使い過ぎの理由は、「の（ん）だ」を使うと文が柔らかくなるように感じたからだが、実際は、柔らかくなるというよりは、むしろ押し付けがましかったのかもしれない。それ以来ずっと、「の（ん）だ」の使い方は本当に難しいと思っている。〈ち〉

（2）　「の（ん）だ」を使い過ぎると、押し付けがましい印象を与えると聞くが、もし「の（ん）だ」を使った方がいい文に、「の（ん）だ」を使わなかった場合には、話し手の主張が弱過ぎ、不自然になるというようなことはないのか。〈か〉

（3）　実際のコミュニケーションの中で、聞き手が「の（ん）だ」を使っていないのに話し手が「の（ん）だ」で答えた場合、それは失礼になるのか。〈ち〉

（4）　日本人は、特に必要のない時でも、「の（ん）だ」を付ける人が少なくないような気がする。日本人には、例えば、マス形（丁寧形）を使わなければならない時に間違って辞書形（普通形）を使ってしまい、それに気がついて、丁寧形にするために「～んです」を加える人もいるのではないか。〈フ〉

（5）　次の会話のように、動詞の否定形「行きません」に「んです」を入れた方が丁寧な印象を与えると聞いたことがある。

A：ゴールデンウィークにはどこかへいらっしゃったんですか。

B：海外旅行をするつもりだったんですが、航空券がとれなく

て、どこへも行かなかったんです。

この会話は「んです」を使い過ぎるような気もするが、もし「んです」を使わなければ、会話は硬くならないのか。〈イ 2〉

2） どのような意味的、ニュアンス的な違いがあるか。

（6） 教科書には、疑問文に現れる「の（ん）だ」は「説明を求める」意味を表すと書かれている。しかし、友達が何かに悩んでいる時、心配して「どうした？」と聞くのではないか。これには「の（ん）だ」が入っていないが、入っていなくても、友達からの説明を求めているのではないか。「どうしたんだ？」という場合と、意味的に、また、相手に与える影響としてどう異なるか。〈ホ〉

（7） 疑問文の「の（ん）だ」は、「とがめ」のような強い言い方の場合は理解しやすいが、単に「説明を求める」の場合は、普通の疑問文と変わらないように感じる。実際はどうなのか。〈ド〉

（8） 小説を読んでいると、第 3 者の考え方を表す文の文末に「のだ」がよく使われているのを見かける。このような現象は文法的にはどう説明すればいいのだろうか。〈ち〉

3） 押し付けがましいと言われる「の（ん）だ」を、なぜ丁寧表現「～んですが」の中で使うのか。

（9） 以前習った日本語の先生は、何かお願いをしたい時は、「～していただきたいんですが」という言い方が一番丁寧であり、「～たいですが」より「～たいんですが」の方が soft に聞こえると説明された。これは「の（ん）だ」を使うと押し付けがましくなるということとは反対ではないのか。〈シ〉

4） 「のだ」と「んだ」の使い分け。

（10） 「のだ」と「んだ」の区別がよくわからない。例えば、日常会話で、（疑問文）①どうしてこんなことをしたか。

②どうしてこんなことをしたんですか。

③どうしてこんなことをしたのですか。

（説明文）④私はピアノを習いたい。

⑤私はピアノを習いたいんです。

⑥私はピアノを習いたいのです。

と言うが、これらの6つの文は意味的にはどう違うのか。〈た〉

5）一つの文に二つ出てくる「の（ん）だ」。

（11）「の（ん）だ」の文型は非常に使いにくいと思う。会話のクラスで、次のような一つの文に「の（ん）だ」が二つ現れる文を勉強した。

①あれっ、帰ったんじゃなかったんですか。

②禁煙したんじゃなかったんですか。

二つ目の「んだ」は説明を求める「の（ん）だ」だと思うが、初めの「んだ」の使い方がよく分からない。〈た〉

6）「の（ん）だ」と「わけだ」の使い分け。

（12）「の（ん）だ」も「わけだ」も説明を表すが、両者は説明文では同じように使うことができるのか。〈ち〉

（13）テキストなどの硬い文章で「わけ」の代わりに「の」が使われているのを見るが、それは単なる言い換えなのか。とれとも用法的に違いがあるのか。〈ア〉

7）「知ってるの？」のような終助詞「の」と、「の（ん）だ」との関係は？

（14）「知ってるの？」という表現をよく耳にするが、最後の「の」は「の（ん）だ」と同じものか。〈ち〉

4.1.2 考察

学習者の戸惑いは「の（ん）だ」の使い方に集約される。「の（ん）だ」がある場合とない場合の意味的な違い、また、「の（ん）だ」をいつ使えばいいのか、使ったら、また、使わなかったら失礼にならないかなどに学習者は悩んでいる。

質問からも分かるように、「の（ん）だ」はうまく使えば語調が柔らかく

なるが、使い過ぎれば押し付けがましく響くことがある。特にレポートや論文などの書き言葉では、使い過ぎには注意しなければならない。

寺村（1984･310）は「の（ん）だ」について次のように述べている。

> 先行する文、あるいは状況をPとしてとり立て（言語化するかしないかは別として）それについて説明する（あるいは説明を求める）のが、～ノダの最も一般的な使い方である。

これによると「の（ん）だ」の基本的な意味は、疑問文では「説明を求める」、平叙文では「説明を与える」と理解できる。筆者もそう考え、テキスト（市川（2005））でもそう説明し、授業でもそう教えてきた。しかし、学習者のワンポイント・クエスチョンから見ると、「の（ん）だ」=「説明」だけでは不十分で、理解にはあまり役に立っていないことが分かる。

学習者に「の（ん）だ」を導入する一つの方法は、「の（ん）だ」を使わない例から入ることであろう。友人連れで居酒屋へ行った時、まず発するのは「飲み物何にしますか」「まずはビールでも飲みますか」などである。決して「飲み物何にするんですか」「まずはビールでも飲むんですか」ではない。単に相手の意志を聞く時は、基本的には「の（ん）だ」は使わない。しかし、相手がなかなか返事をしない、ビールではなくソフトドリンクのメニューを見ているというような状況があった時、つまり、話し手の注意点（視点）がそのような特別の（個別の）状況に注がれた時、話し手は「飲み物何にするんですか」「ビールは飲まないんですか」のように「の（ん）だ」を使い始める。

したがって、「の（ん）だ」は会話や文章の冒頭に出てくることは少ない。初対面の人が「私はドイツの留学生なんです」「〇〇先生のもとで研究しているんです」とは言わない。「ほかの国の留学生に間違われた」「目的もなしに大学をぶらついていると誤解された」というような、何か特別の（個別の）状況があり（起こり）、それに視点を置いた話し手が「の（ん）だ」を使うと言ってもいいだろう。

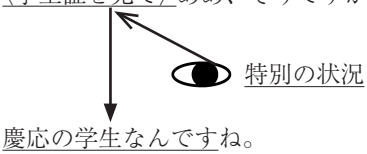
次の会話では、話し手（職員）の視点（●プラス矢印）で示す）は特別（個別）の状況「学生証を見る」ことで「学生なんですね」と「の（ん）だ」の使用に移っている。

学生：私は慶応の留学生です。

職員：えっ、学生証を見せてください。

学生：はい。

職員：〈学生証を見て〉ああ、そうですか。



「の（ん）だ」の指導については、視点の移動と同時に次の点にも注意をしたい。

1）「の（ん）だ」は主に話しことばで用いられ、書きことばで用いる時には注意が必要である。「の（ん）だ」をレポートや論文などで用いる時は、使用回数を減らし、より説明的表現である「わけだ」や「ということだ」なども使わせるようにする。

2）「の（ん）だ」は「ね・よ・な」などと同じ終助詞的な振舞いをするものととらえることもできる。終助詞的であるので、文の構成要素というより、話し手の気持ちを添える役割を果たすと考える。したがって、「の（ん）だ」が使えなくても内容を伝えるうえではそれほどの支障はない。相手が「の（ん）だ」で質問しても、「の（ん）だ」で返す必要はない。

3）終助詞は習得が難しい。学習者がある程度の期間日本語環境の中で終助詞にさらされる必要がある。それと同じく終助詞的「の（ん）だ」も、授業では時間をかけ過ぎたり、説明過多に指導しないほうがいい。ただし、学習者が不快感を与えるような「の（ん）だ」文を使った

時には、それを取り上げ、どうして不快感を与えるかを学習者とともに考えるのがよい。

4）「の（ん）だ」が丁寧な許可願い（例：お話があるんですが。明日休みをとりたいんですけど。）に「～んですが／けど」の形で使われるのは、話し手の視点が「話がある」「明日休みをとりたい」などの特別（個別）の状況（事情）に置かれているためと考えることができる。

4.2　自動詞・他動詞

人が電気をつけた時、人に視点（注視点）を置くと「電気をつける」であり、電気に視点を置くと「電気がつく」になる。この「つく」「つける」が自動詞・他動詞と呼ばれるものである。文法的には目的格「を」をとるものを他動詞という。自動詞・他動詞には、「つく」「つける」のように対（ペア）になっているもの、自動詞だけのもの（例：行く、寝る、困る）、他動詞だけのもの（例：書く、飲む、置く）がある。

4.2.1　学習者の質問

1）　自動詞と他動詞の区別ができない。

（1）　欧米の学生にとっては自他の概念はあまり難しくない。問題になるのは類似の音をもつ自動詞・他動詞（例：閉める・閉まる、消す・消える）をどう区別するかということである。〈イ 1〉

（2）　中国語など自他の概念のない言語を母国語に持つ学習者にとっては、日本語力がかなり上達しても自他の区別に戸惑うことが多い。どのようにすれば効率的に自他を区別できるか。また、日本人はどのようにして自他を覚えるのだろうか。〈ち〉

（3）　言葉の意味が分からない時よく辞書で調べるが、動詞に「自」「他」を付けている辞書は少ないように思う。それはなぜか。日本人は自分の感覚だけで判断できるのか。日本語学習者（特に、語彙が少ない初級者）にとって、辞書に自他の表記がない場合、例文で判断す

るのだろうか。〈た〉

2） 自他ペアのある動詞と、ない動詞はどう見分けるのか。

（4） 他動詞と自動詞両方ある動詞（例：かける・かかる）と、他動詞か自動詞しかない動詞（前者例：書く、後者例：困る）がある。これらを見分けるルールはあるのか。〈マ〉

3） 個別の自他動詞について。

a. 「起きる・起こる・起こす」

（5）「起きる」と「起こる」の他動詞は両方とも「起こす」か。もしそうなら、「起こす」は「起きる・起こる」のどちらの意味になるのか。どうやって判断するのか。〈シ〉

b. 「終わる・終える」

（6）「終わる」は自動詞で、「終える」は他動詞と習ったが、テキストには「終わる」は他動詞でもあり自動詞でもあると書かれている。以前習ったことは正しくなかったのか。〈ロ〉

c. 「預かる・預ける」

（7）「子供を預かる」と「子供を預ける」は両方「を」をとる。両方とも他動詞なのか。両者はどう異なるのか。〈た〉

4）「てある」「ておく」「ている」と結び付いた時。

（8）「ておく」「てある」は他動詞とともに使われることが多いようであるが、「ている」はどうか。「エアコンがつけてある」「エアコンがついている」は両方正しいか。その場合、意味の違いはあるか。〈カ〉

5）「自動詞・他動詞」と「使役・受身」との関係は？

（9） 一つの動詞が必ずしも対応する自動詞（または、他動詞）を持っているとは限らない。対応する自動詞が存在しない時は他動詞の受身形が自動詞として、また、対応する他動詞が存在しない時は、自動詞の使役形が他動詞として使われると聞いたことがある。つまり、他動詞の受身形は自動詞の性質や働きを持ち、自動詞の使役形は他

動詞の性質や働きを持つということである。では、自動詞と他動詞の受身形、他動詞と自動詞の使役形はどう使い分けるのか。〈た〉

（10）「溢れ出る」「溢れ出す」のよう複合動詞も、それぞれ自動詞と他動詞に対応し、意味的にも自他に対応するのだろうか。〈ち〉

6）「N＋する」動詞の自他について。

（11）発展する（自動詞）、発表する（他動詞）、完成する（自他動詞 例：ビルが完成する、ビルを完成する）のような、「N＋する」動詞の自他の区別をよく間違ってしまうが、どうすれば区別できるのだろうか。〈た〉

7）他動詞を使っているのに自動詞的意味を表す表現について。

（12）他動詞は「目的語＋を」を持つ動詞で、動作主の意志を表すと説明されるが、「お腹をこわす」の「こわす」のような他動詞の使い方が分かりにくい。なぜ自動詞の「こわれる」ではなくて、主語の意志の入る他動詞で無意志的な状況を表すのか、非常に気になるところである。〈か〉

8）自動詞・他動詞と日本文化。

（13）なぜ日本人は他動詞より自動詞を使う傾向があるのか。「この度、私達は結婚することになりました」「授業が始まります」のような言い方をよく耳にする。「結婚することにしました」「授業を始めます」という言い方のほうがブラジル人にとって自然である。日本人は自分を動作主にしない傾向があるように感じるが、どうだろうか。〈ブ〉

（14）この前、駅員が「ドアを閉めます」と言ってから、すぐ恥ずかしそうに苦笑いして「ドアが閉まります」と言い直した。日本人が「閉まる」という言い方を好むのは知っているが、使ってはいけないのだろうか。〈ち〉

（15）日本語の自他動詞は「ある動作をする」と「ある変化が起こる」の違いを表しているが、同時にそれは丁寧さと関係があるのではない

か。〈ホ〉

4.2.2　考察

質問の多くは自動詞と他動詞の区別に関するものであった。使い分けは一応分かっているが、自他が形の上でよく似ているので、区別の仕方が分かりにくい、覚えられないというものである。自動詞・他動詞と受身・使役との関係を問うもの、自他と関係する「ている・てある・ておく」についての質問もあった。自動詞・他動詞について日本人の考え方・文化に関する質問もいくつかあった。

自動詞・他動詞を語彙の問題と考え、次のように単語レベルの習得を促すことも必要である。

1）　他動詞（左）・自動詞（右）を並べたリストを作る。最初は 10 組程度の基本的な動詞に絞り、単語としてそれを覚えさせる。暗記を宿題とする。

2）　翌日、小テストでチェックする。

3）　自他を習ってしばらくは毎朝授業の始めに 5 分程度の暗唱をさせる。

学習者にとって次に難しいのは、自動詞・他動詞の後ろに「ている」「てある」「ておく」などの補助動詞が付いた場合である。自動詞・他動詞のどちらが当該の補助動詞に付くのか、結果としてどのような意味用法になるかがとらえにくいようである。「ている」「てある」「ておく」は自他動詞に付いて、次のような意味用法を持つ。

	ている	てある	ておく
自動詞 （つく）	結果の状態　a （ついている）	×	×
他動詞 （つける）	動作の継続・進行 （つけている）	結果の状態　c （つけてある）	そのままにする （つけておく）
	結果の状態　b （つけている）	準備の状況　d （つけてある）	準備の状況　e （つけておく）

結果の状態を表す文は次の abc である。（上表の abc と対応する。）

（1） a. あの店では一日中電気がついている。（自動詞＋ている）

b. あの店では一日中電気をつけている。（他動詞＋ている）

c. あの店では一日中電気が／をつけてある。（他動詞＋てある）

また、意味的な違いはあるが、「前もって／準備をする」（表では「準備の状況」）という意味を表す文は次のようである。

（2） d. あの店では客のために電気を／がつけてある。（他動詞＋てある）

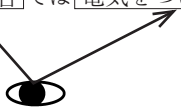
e. あの店では客のために電気をつけておく。（他動詞＋ておく）

これを視点というとらえ方で考えると次のようになる。

〈夜、暗闇の中で〉

（1）′ a：あ、店の 電気がついて いる。（自動詞＋ている）

b：そうね。 あの店 では 電気をつけて いるわね。（他動詞＋ている）



c：あの店では （夜来る客のために） 電気が／をつけて あるのよ。

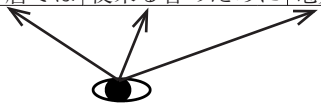
（他動詞＋てある）

（1）′ において、話し手 a は「電気」に注視して店の状態について述べ、それに対して b は、店に注目し「つけている」と言った。そばにいた c は、「店」と「電気」に視点を置き、なおかつ、「夜、客が来る」という理由、また、電気がついている状態を「ものの存在を描写する」（山崎（1996））という意識を持って、「つけてある」と言ったと思われる。

一方、（2）についての視点は次のように置かれると考えられる。

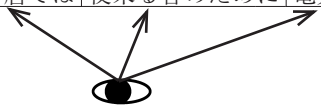
(2)′　d.　あの店では　夜来る客のために　電気をつけて　ある。

（他動詞＋てある）



e.　あの店では　夜来る客のために　電気が／をつけて　おく。

（他動詞＋ておく）



(2)′ d は、(1)′ c と同じく、「店」と「電気」に視点を置き、「夜、客が来る」という理由をも想像して「つけてある」と言ったのであり、e は、同じことを、より店側に視点を置いて店側の意向・意志を表すために、「ておく」を使ったと考えられる。話し手が、電気がついている状態を「ものの存在を描写する」とらえた時に「てある」が、「意図的な行為」としてとらえられた時に「ておく」が用いられる。

いずれの場合も、「店」に視点が置かれる場合は他動詞が用いられ、「電気」に視点が置かれ「状態」を表す時は、「ている」「てある」が選ばれる。

自動詞・他動詞の文中での使い方、使い分けについては、次のように考えるのも一案である。

学習者は自他の抽象的概念は分かっている。しかし、具体的に文作りになると、分からなくなる。一方、日本人は、文を少し読んだだけで、後ろに自動表現（自動詞）が来るか、他動表現（他動詞）が来るかは、かなり絞り込んで予測している。つまり、日本人は、その文が「する文（他動詞文）」か、「なる文（自動詞文）」かという文の持つ方向性が分かる。したがって、学習者にもそのような方向性が身に付く練習法を取り入れてはどうか。次はその一例である。

〈他動詞を入れる練習〉

(1)　さあ、クラスを始＿＿＿＿＿ましょう。

(2)　父と母のどちらがこどもを育＿＿＿＿＿かが問題だ。

(3)　このビンのふたを開（あ）＿＿＿＿＿ください。

（4）　子供が火事を起_____こともある。

（5）　手足を動_____ないでください。

（6）　あの箱に入_____あるものはすべて高級商品である。

（7）　クレープを作りましょう。このフライパンで焼_____ください。

〈自動詞を入れる練習〉

（1）　もうすぐクラスが始_____ます。

（2）　子供が父と母どちらのもとで育_____かが問題だ。

（3）　このビンの蓋は固くて、なかなか開_____。

（4）　子供の火遊びで火事が起_____こともある。

（5）　手足が動_____ないように、縛っておきましょう。

（6）　あの箱に入_____いるものはすべて高級商品である。

（7）　クレープを作りましょう。すぐ焼_____から気をつけてね

「名詞＋を＋動詞」を示すことで他動詞文を、「名詞＋が／は＋動詞」を示すことで自動詞文を作らせる。他動詞文・自動詞文を一定量見せることでその方向性を感じ取らせる方法である。（6）は補助動詞「てある」と「ている」と結び付けた問題で、（7）は他動詞では「クレープを」、自動詞では「クレープが」が省略されている。

4.3　受身

動作主「人」に視点（注視点）を置いた「人が寺を建てる」から、視点を「寺」に移した「寺が建てられる」を作ることができる。後者が受身文と呼ばれるものである。日本語では、「寺が建てられる」のように、被害（迷惑）の意味合いを含まない受身もあるが、多くは「泥棒に入られた」「足を踏まれた」のように被害（迷惑）の意味合いを含む。日本語の受身は基本的には被害（迷惑）の意味合いを含むものと考えられる。

4.3.1　学習者の質問

1）　受身の使い方について。

（1）　次の二つの文は正しいか。正しい場合、ニュアンス的な違いがあるか。

①村上春樹の書いた小説は全部面白いと思う。

②村上春樹によって書かれた小説は全部面白いと思う。〈イ 3〉

（2）　次の①は私（学習者）が書いたもの、②は先生が訂正したものである。

①トルティージャを作るため、最初に皮がむかれ、横 1 センチのさいころに切られたジャガ芋とみじん切りにされた玉ねぎを、別々に、キツネ色になるまでオリーブ油で軽く炒める。

②トルティージャを作るため、最初に皮をむき、横 1 センチのさいころに切ったジャガ芋とみじん切りにした玉ねぎを、別々に、キツネ色になるまでオリーブ油で軽く炒める。

下線部が訂正個所である。先生の説明では、②において名詞修飾節（皮をむき、さいころに切った ジャガ芋 と、みじん切りにした 玉ねぎ）の主語は省略されているが、「あなた」であるということである。私が書いたものはダメなのか、それとも文体だけの直しなのか、よく分からない。〈ス〉

2）　受身と使役の区別。

（3）「上司が部下を出張させる」は、「上司が部下を出張される」と言えるか。〈ニ〉

3）自動詞の受身。

（4）　受身は自動詞と他動詞によって使い方が異なる。私が困るのは自動詞の 場合で、例えば、「雨に降られて、ずぶ濡れになってしまった」の文は、見れば何となく分かるが、自分では作れない。自動詞は迷惑や被害の受身にしか使われないというのは正しいか。〈ち〉

(5)　自動詞の受身は話し言葉にはあまり使われないのではないか。「訪問販売員に来られて困った」と「訪問販売員が来て困った」では、迷惑の程度はどちらが強いのか。〈ニ〉

(6)　「私の子供が泣いた」を受身にすると、「私は子供に泣かれた」になるが、私には「子供に泣かれて、困った」より「子供が泣いて、困った」のほうが分かりやすいような気がする。〈ア〉

(7)　自動詞の受身の後ろに「～て困った」「～てしまった」などを付けずに、受身文だけで終わる（例：子供に泣かれた。雨に降られた。）のは不自然か。〈ち〉

4）直接受身と間接受身（迷惑受身）について。

(8)　「私は足を踏まれた」という文は、「足が踏まれた」という言い方にしても通じるか。それとも、「足を踏まれた」のほうが適切か。また、「何かとられましたか」という文では、「何か」の後ろに省略されているのは「が」なのか「を」なのか。私は「が」だと思うが、どうか。〈ち〉

(9)　「私のカメラは弟に壊された」も「私は弟にカメラを壊された」も正しいと思うが、初めの文のほうが私には自然で、すぐそちらを使ってしまう。〈た〉

5）　受身文の助詞について。

a.　「が・を」

(10)　受身を使う時に助詞で混乱することが多い。例えば、次の文の「を」と「が」の違いは何か。

①不景気のために、お金をあまり使わずに時間をつぶせる娯楽に、時間<u>が</u>費やされた。

②意思の疎通を図るために会議が増え、緊急時でも、必要でないことに多くの時間<u>を</u>費やされた。〈ア〉

b. 「によって」「から」

（11） 特に動作を行う人を表す必要がない場合（行為者のない受身文）では①のように「に／によって」が省略される。

①輸入品は高い関税がかけられている。

もし行為者を表したい場合、次のようにしてもいいか。

②輸入品は国に高い関税をかけられている。〈た〉

（12）「弟が兄からなぐられた」のように「から」を使っても大丈夫か。〈か〉

6） 受身と自発の関係。

（13）「～と思われる／思われます」を使った文を時々見る。どのような場合にこの表現を使うのか。これは「～と思う／思います」とはどう異なるのか。〈た〉

7） 受身と授受「～てもらう」の関係。

（14） 私の髪の毛が短くなったのを見て、友達が「よく似合うね」と言ってくれた。私は「きのう美容院で髪を切られた」と答えてから、「美容院で髪を切ってもらった」と言い直した。「切ってもらった」のほうが正しかったか。〈ち〉

4.3.2 考察

初級の授業では、受身形の作り方や受身文の基本的な枠組み練習に終始してしまうことが多いためか、学習者には、実際にはいつ受身表現を使うのか、今まで習ってきた能動表現とどのように使い分けるのかが難しい。また、もっと基本的なところで、2）の（3）のように、受身と使役の区別がつきにくい学習者もいることにも留意しなければならない。

従来の指導法（市川（2005）も同じ）では、直接受身（例：私は先生に叱られた）と間接受身（例：私はドアに手をはさまれた）とに分けて説明される場合が多いが、学習者にはその区別が難しく、筆者自身、果たして直接・間接に分ける必要があるかという迷いを持つ。しかし、一方で両者を

区別しなければ、間接受身の、例えば「私は手をはさまれた」と、直接受身の「私の手がはさまれた」の違いをどう説明するのかも問題になってくる。

また、学習者は「雨に降られて、困った」「子供に泣かれて、寝られなかった」のような自動詞の受身は理解しにくいようである。能動表現を用いた「雨が降って、困った」「子供が泣いて、寝られなかった」のほうが直接的で分かりやすいというのも一理がある。母国の日本語の授業で自動詞の受身を習わなかった学習者も多く、それは日本語教育の中で自動詞受身を教える必要が本当にあるのか否かの問題につながっていく。

受身文の文末について前田（2009）は、日本語の受身文は「手をはさまれた。」「雨に降られた。」のように受身形で言い切る形より、「手をはさまれて、痛かった。」「雨に降られて、困った。」のように「受身形のテ形」の形で文末へつながっていく例のほうが圧倒的に多かったと報告している。受身形の練習などには参考にしたい調査結果である。

視点（注視点）というとらえ方で、受身文をどう考えていくかについては、使役文と併せて考える。

4.4　使役

学習者の疑問は「使役文はいつ使うのか」に集約される。クラスでの練習問題では分かっても、実際の言語使用の場で、いつ使役文を使うのかがつかめていないと言える。提出された疑問点は次のようである。

4.4.1　学習者の質問

1）　使役文はいつ使うのか。

（1）　①は後輩が書いたもの、②は先生が訂正したものである。

①たくさんの店が道路の両側の空いている場所を占めて、
歩行者が歩けないほど<u>混ませまし</u>た。

②たくさんの店が道路の両側の空いている場所を占めて、
歩行者が歩けないほど<u>混んでいました</u>。

後輩が「混ませる」という使役形を使った理由は、「たくさんの店が道路の両側を占拠している」ことが「道路が大変混雑する」という結果になったのだから、結果を引き起こす中国語表現、「使得」（～させる）を使えばよいと考えたためだと思う。しかし、日本語では使役形を使った「道を混ませる」という言い方は不自然である。

中国人の日本語学習者に「させる」を付加する誤用が多いのは、中国語では「原因事象を表わす文」＋「使役標識（「使得」など）」→「結果事象を表す文」という「基本文型」があるためだと思う。〈ち〉

(2) 先生が重そうな荷物を持っておられるのを手伝いたい時、使役や使役受身の表現を使ってどう言ったら丁寧になるか。〈か〉

2） 使役と受身、使役受身、他動詞・自動詞の関係。

(3) 使役と受身は似ているため混乱しやすい。分かりやすく両者を区別する方法はあるか。〈ト〉

(4) 次の言い方は正しいか。どれが一番よく使われるか。

①母親は子供を起こす。

②母親は子どもを起きさせる。

③子供は母親に起こさせられる。

④子供は母親に起こされた。 〈ち〉

(5) 私の頭の中では、使役、使役受身、受身が混乱している。例えば、下の三つの文は正しい日本語か。

①雨のため、学校で 1 時間も待たされました。（使役受身文）

②雨のため、学校で 1 時間も待たれました。（受身文）

③雨のため、学校で 1 時間も待たせました（使役文）

正しいとすれば、それぞれどう異なるのか。〈た〉

3）「無生物主語＋～（さ）せる」はどこまで使用可能か。

(6) 「それは私を驚かせました」という文が誤用の例として挙げられている。私もこのような文を使ったことがある。次のような文も間

違っているのだろうか。

①彼が後ろから私の肩を叩いて、驚かせました。

②その情報がみんなを驚かせました。〈ち〉

(7) 「無生物が、使役を含めて他動詞の主語になることは少ない」ということだが、その少ない例をいくつか教えてほしい。〈カ〉

4) 助詞の使い分けについて。

a. 「を」と「に」

(8) 自動詞を使役にすると「～を～(さ) せる」、他動詞では「～に～を～(さ) せる」になると習った。「勉強する、掃除する、留学する」は「勉強をする、掃除をする、留学をする」とも言えるので、他動詞と考えればいいか。例えば次の二つの文はどちらが正しいか。

①母が娘を勉強させる

②母が娘に勉強をさせる。〈ち〉

(9) 教え方についての私の個人的な意見だが、使役形の作り方に重点を置くより、前に来る助詞に注意させたほうが行為関係が理解できて、より効果的になると思う。もちろん活用変化も重要だが、例えば「を」と「に」の使い分けが理解できないと、使役文はうまく作れないと思う。〈か〉

(10) その使役表現が「許可」「強制」のどちらを表すかについて質問したい。自動詞文では次のようになる。

①父親は息子に外で遊ばせた。→ 許可

(理由: 息子が宿題をすべて終えたから)

②父親は息子を外で遊ばせた。→ 強制

(理由: 息子が引きこもらないように)

一方、他動詞文では、許可・強制に関わらず「～に～を」をとる。

③父親は息子に本を読ませた。→　これは許可？強制？

この場合、どうやって許可か強制かの区別ができるのか。文脈で判

断するのか。〈ス〉

b.　使役文では主語は「は」より「が」を取りやすい？

（11）　理由ははっきり分からないが、使役文ではなぜ、次のように、主語には「は」より「が」を使うことが多いのだろうか。

例：正夫が妹にけがをさせた。〈オ〉

5）　使役文で「誰が誰に～（さ）せる」かの関係がつかみにくい。

（12）　日常生活の会話や文章では、主語・主題、目的語などが省略されることが多いので、誰が行為をさせ、誰がその行為をするのかの理解に時間がかかる。速く理解できる方法を教えてほしい。〈た〉

6）　使役と使役受身について。

（13）　韓国語には使役表現はあるが、受身表現はない。（迷惑を受ける、強制的に何かをさせられるなどの状況を表す「受身・使役受身」表現が日本語のようにあるわけではない。）したがって、日本語の受身表現をちゃんと理解するのに時間がかかる。また、動詞の基本形を使役受身に変換する時、特に 1 グループには二つの形、例えば、「飲む」は「飲まされる／飲ませられる」があるが、短いほうの「飲まされる」を使用したほうがいいのか。〈か〉

（14）　次の①②の意味は同じか。また、①ではなぜ「（僕）に」ではなく「（僕）が」になるのか。

①彼と飲むと、いつも僕がお金を払わされる。→使役受身

②彼と飲むと、いつも僕にお金を払わせる。→使役　〈ち〉

7）　使役・使役受身と文化について。

（15）　日本語に使役、使役受身の表現が多いのはなぜか。日本の文化、日本人の性格と関連づけて説明してほしい。〈か〉

（16）　日本人はあまり使役を使わないような気がする。どんな時、また、どんな気持ちで日本人は使役を使うのか。〈ニ〉

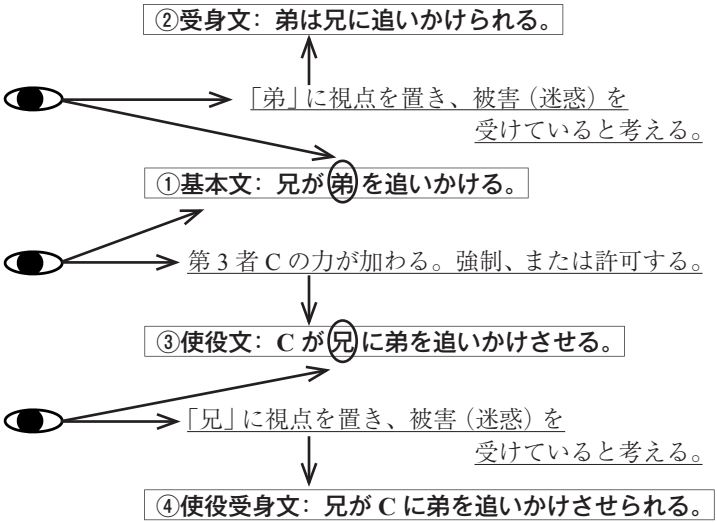
4.4.2　考察

使役と受身の関係、使役と使役受身の関係がつかみにくいという意見が多かった。「誰が誰にさせるのか」「誰がするのか」の関係がつかめないことが根本的な問題であるが、それ以上に、使役文、受身文、両者を合わせた使役受身文そのものへの理解がなかなかできないということがあるようだ。理解が難しい理由は、母国語にそのような表現がない場合もあるし、日本語として実際上、いつ、どのような時に使われるかが分かりにくいということもあろう。

日本語では、「それが私を驚かせた」のような、動作の主体が無生物主語の文がなぜ不自然なのかに多くの質問が集中した。特に中国人学習者に多かった。また、使役には強制の意味を持つ場合（例：家の中でゲームばかりしているので、（無理やりに）息子を公園へ行かせた）と、許可の意味を持つ場合（例：公園へ行きたがるので、1 時間だけと決めて息子に公園へ行かせた）がある。学習者は助詞の使い分け（自動詞の強制には「を」、許可には「に」）は知っているようだが、多くの場合どちらを使えばいいかの判断に苦しむようである。

また、7）の（15）（16）のように、学習者の間では日本人が使役文をどの程度使っているのかについて、意見が分かれるようである。「誰かが誰かに何かをさせる」というような強制を表す使役文はあまり聞かないが、「～させていただく／もらう」「～させてください」のように授受表現と結び付いた形はよく耳にするといくことなのかもしれない。

では、次に受身と使役のとらえ方を視点（話し手の注視点）という観点から考えてみる。基本文として、他動詞文「兄が弟を追いかける」を考える。



①の基本文は動作主の「兄」に視点が置かれているが、視点が「弟」に移った時、そして、「弟」の状況を被害（迷惑）ととらえた時、②の受身文が生まれる。一方、基本文に他の人、ここでは C の強制的な力（マイナスの力として「許可・放置」なども含む）が加わると、③の使役文ができる。使役文では C に視点が置かれているが、視点を「兄」に移し、「兄」の状況を被害（迷惑）ととらえた時、④の使役受身文が生まれる。

このような視点に基づくとらえ方が、学習者の習得に即、結び付くか否かは更なる実証が必要であるが、中国や韓国の学習者が受身・使役・使役受身の関係をつかみかねている時、相互の関係を把握するための一助となるのではないかと考えている。

4.5　敬語

学習項目の中で敬語に対する質問が一番多かった。また、質問の内容が多岐にわたり、質問数をかなり減らしたが、22 という多さになってしまった。学習者が多くの情報に戸惑い、相手に対する適切な使い方に戸惑って

いるのが分かる。

4.5.1　学習者の質問

1）　敬語の実際の使い方。

（1）　敬語はいくら暗記しても、実際使う段になると混乱して上手に使えなくなる。どうすればいいのだろうか。よく分からない時にはどんな敬語を使えばいいのか。あまり丁寧な敬語を使うと逆に卑屈になるように思う。

　先日、歳の差があまりなくて、しかし、初めて会う人だったので、「では、今週の水曜日に拝見させていただきます。」と言ったが、これは堅苦し過ぎただろうか。また、ドラマで見たのだが、親しい関係になれば、先生にタメ口を使ってもいいか。テレビで、初めて会うおばあさんに、「おばあちゃんどこ行くの？」と言っているのも見たことがある。〈か〉

（2）　寮の食堂で働いているおばさんが使っていた丁寧語を、男性の先生に使ってみた。「先生、お豆腐を召し上がりますか」と言ったら、先生に「どうして、女のようしゃべり方をするのか」と注意された。敬語の語彙を覚えるのも大切だが、同時に習慣や人間関係にも注意しなければならないと思った。〈イ 2〉

（3）　「まいります」は「行く」の丁寧語だと習ったので、バイト先で「倉庫にまいります」と言ったら、店長に「倉庫に行ってまいります」の方が謙譲語だと言われた。店長によると、「倉庫にまいります」は偉そうに、勝手に行くことを決めるという意味合いが入るので、謙譲語ではないということだ。実際はどうなのだろうか。〈た〉

（4）　「敬語」を実際の場面で使うのが難しく「です形・ます形」を使ってしまう。敬語を使わず、「です形・ます形」だけで会話をしてはだめか。〈か〉

（5）　日本人は友達と話す時、いつもは普通体を使うのに、時折、敬語を

使うことがある。その理由は何だろうか。敬語を使うと、人との関係が遠くなる気がするが、もし初対面の人と親しくしたい時は、どうすればいいのだろうか。〈ニ〉

(6) 日常生活で使われている依頼表現は、ほとんどが慣用的なものだと思う。ただ自分自身は、丸暗記していてもなかなか使えない。例えば次のようなものである。

①お差し支えなければ、…

②お手数ですが、…

③ご迷惑じゃなければ、…

④申し訳ありませんが、…

これらの意味的な違いや使用場面を教えてほしい。〈た〉

2) 過剰敬語への不安。

(7) 部長に「〇〇さんがまた電話すると言っていた」と伝えたい時、次の敬語のどちらを使えばいいか。

①〇〇さんが改めてお電話するとおっしゃっていました。

②〇〇さんが改めてお電話するとおっしゃられていました。〈カ〉

(8) 「先生は三味線もなさっていらっしゃるんですか。」という文は、過剰敬語か。〈ち〉

(9) 敬語を使い過ぎると、かえっておかしくなったり、皮肉に聞こえることがある。どのくらいの敬語を使えば失礼にならないのかがよく分からない。例えば、先生との面接や就職面接の時、どのくらいの敬語を使うのが適切か。敬語に使い慣れていなければ、「でございます」ではなく、「です」でもいいのか。〈た〉

3) 敬語表現とその敬意の度合い、使い方。

(10) 尊敬語を表す形には、「お＋マス形の語幹＋になる（例：お待ちになる）」と、受身（例：待たれる）を使う形がある。両者に違いがあるか。どちらを使ってもいいのか。〈シ〉

（11） 敬語を使う時は迷うことが多い。特に人と話す時いくつかの敬語のパターンが頭に浮かび、結局、間違った敬語や丁寧すぎる敬語を使ってしまう。また、せっかく敬語を使えても、次に続く言葉がくだけた言い方になってしまって、バランスがうまく取れないのも難しいところだと思う。〈ち〉

4） 謙譲語と丁寧語の違い、使い分け。

（12） 韓国ではたとえ身内の人であっても、その人が話し手より年上の場合は尊敬語を用いる。また、謙譲語と丁寧語の違いがはっきり分からない。日本人はなぜ自分を下に置く謙譲語を用いるのか。話し手の行動が聞き手と関係しているか否かで判断すればいいのか。〈か〉

5）第 3 者が絡む時。

（13） もし話題の人物が 2 人いる場合、2 人の関係も注意すべきか。また、2 人の上下関係が明らかではない場合は、どうすればいいのか。例えば、山田、佐藤（同僚）、林（上司）、森（他社の部長）がいて、山田さんが佐藤さんに話しかける場合、「佐藤さん、林さんは森さんにもう原稿をお送りになったか」でいいか。〈ド〉

（14） 友達同士で会話をしていて、話題の人物（例えば、先生）がその場にいない場合、話題の人物（先生）のことを尊敬語を使って表すか。尊敬語を使うと、先生を尊敬しているということになるのか。反対に、使わないと尊敬していないように聞こえるのか。〈シ〉

6）「～ていただく」「～てくださる」（授受と敬語）。

（15） 「本日はご来店いただきまして、ありがとうございます」というのをよく聞くが、文法的に正しいのか。また、「本日はご来店くださいまして、ありがとうございます」のほうがより正しいのだろうか。〈た〉

（16） 日本人は授受表現を使って敬意を表すことが非常に多い。例えば、「～てくださる」「～ていただく」など。そのため、私は敬語と授受

のどちらを使ったらいいのか分からなくなることが多い。〈ち〉

7）「お／ご～してください」について。

（17）「お電話してください」とか「ご紹介してください」というのをよく聞く。今年の紅白歌合戦の中で、総合司会者が白組の司会者に「さあ、それでは、白組をご紹介していただきましょう」と言っていたが、「ご紹介していただく」ではなく、「ご紹介いただく」なのではないだろうか。〈ち〉

8）「～でございます」について。

（18）「～でございます」は謙譲語か、どれとも尊敬語か。いつ使うか。自分のものについて話す時か、相手のものについて話す時か。〈た〉

9）「申す」「申し上げる」について。

（19）「言う」の謙譲語「申す」と「申し上げます」はどう使い分けるのか。〈ち〉

10）「～ませ」について。

（20）「～ませ。」は、サービス業の場面以外ではあまり聞いたことがないが、先生や上司のような目上の人や、取引の先の人に使ってもいいか。〈た〉

11）「お」と「ご」、和語と漢語。

（21）漢語と和語はどうやって区別するのか。〈ち〉

（22）自分の推測だが、敬語の「お」と「ご」の使い分けは名詞の使用頻度と関係があるのではないか。〈ち〉

4.5.2　考察

質問内容を見ると、学習者は日本人の敬語の実際の使い方に耳をそばだて、ある時は疑問を抱きながら、自分なりに考え、整理しようとしている。彼らの疑問は、どんな場合にどんな敬語を使ったらいいか、失礼にならず、また、逆に丁寧過ぎず、一番適切な敬語表現は何かという点に集中している。また、「～ていただく」「～てくださる」という授受表現との関

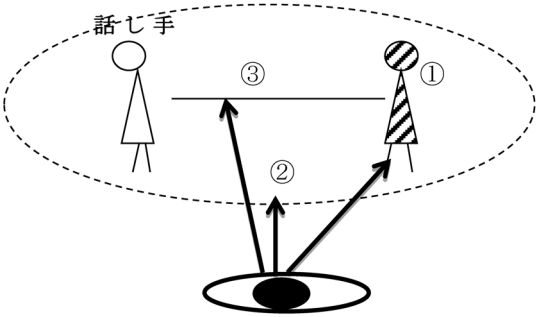
わり合いも学習者には難しいところである。

複雑な敬語ではあるが、その基本は「相手に不快感を与えない」「社会的秩序を守る」ということであろう。敬語を考える時には次の 3 要素が問題になってくる。

①相手　②場面　③相手との距離（親疎）

①の相手（聞き手）は、相手の社会的な地位や立場も含まれる。相手が先生、勤め先の上司、医者、先輩、近所の人、友達などによっても敬語の使い方が変わる。②は言語使用場面である。公的な場か私的な場か、面接会場かスピーチ発表の場か、それとも友人とのラフな会話なのか、また、面と向かって話すのか、電話の会話かによっても変わってくるだろう。③の相手との距離というのは相手とどのくらい親しいかという親疎関係である。相手がウチに属するかソトに属するかというウチとソトの関係とともに、相手との心理的な距離・親疎関係が問題となる。

次の図のように、日本人は常にこの 3 つを視野に入れて、ふさわしい敬語表現を探りながら会話していると言える。



次の表は、日本人が①～③を組み合わせて、どのような敬語表現を使っているかを示したものである。①の「相手」を「上の人」と「中・下の人」に分ける。「中」と「下」を合わせたのは、日本人は友達・同僚などの中位の者、家族の弟・妹など下位の者とのことば遣いはそれほど変わらないと考えたためである。②の「場面」は、大きく「公的」と「私的」に分ける。

③距離（親疎）は様々な場合がある（会話の途中から親疎の関係が変わることもある）と考えられるが、「小・中・大」(「小」は親しさが小さいことを表す）に分ける。表において、敬語を使用する場合は「敬語」、敬語を使わない場合は「非敬語」とし、「敬語・非敬語」は両者の使用が半々程度の場合、「敬語（非敬語)」は敬語の使用のほうが多いと判断されることを示している。

		上の人	中・下の人
場面	公的場面	敬語	敬語
	私的場面	敬語(非敬語)	非敬語[5]
親疎	親しさ小	敬語	敬語・非敬語
	親しさ中	敬語	非敬語
	親しさ大	敬語・非敬語	非敬語

表を見ると、日本人はまず相手が上の人かそうでないかを重視、次に公的な場面かそうでないかを重視しているのが分かる。「話題の人物が聞き手でない場合、友達同士の会話で尊敬語を使うことはよくあるか」という学習者の疑問については、「私的場面」「親しさ大」の中では非敬語が優先され、話題が「上の人」であっても非敬語のままであるのが一般的であろうと考えられる。

5. 終わりに

以上、「の（ん）だ」「自動詞・他動詞」「受身」「使役」「敬語」5 つの文法項目について、学習者の疑問・質問を取り上げ、考察した。本来は、学習者のすべての質問に解説をすべきかもしれないが、本小論では学習者がどのような問題を抱えているかを示すことを第一義とした[5]。

学習者の疑問は我々にいろいろのことを教えてくれる。学習者は我々の想像を越えたところで疑問を感じ、困難や悩みを抱いている場合が多い。何年間かの日本事情のクラスを通して、むしろ学習者に教えてもらうこと

が多かった。この場を借りて学習者すべてに感謝したい。そして、この小論文を通して、外国人学習者が日本語文法についてどのようなことを考え、悩み、疑問に思っているかの一端を知っていただければ有難いと思う。

注

1）授業参加学生を学習者と呼ぶ。学習者の日本語レベルは慶応大学別科クラスの 8 レベル（上級）以上である。
2）2009 年春学期 11 名については、『中級日本語文法と教え方のポイント』を取り上げたため除外した。
3）木田・清水（2013）では、ノンネイティブ日本語教師に対する「文法アンケート」で、「研修の文法授業で学びたいこと」や「自国で教えている時、学生にうまく説明できなかったこと」をまとめ、分析している。そこには 17 の項目が挙げられているが、そのほとんどが「日本事情」クラスで取り上げた項目と一致している。
4）国籍表示は紙幅の関係で 1 文字で表した。詳細は次のようである。
ア：アメリカ　イ 1：イギリス　イ 2：イタリア　イ 3：インドネシア　オ：オーストラリア　か：韓国　カ：カナダ　シ：シンガポール　ス：スペイン　た：台湾　ち：中国　ト：トルコ　ド：ドイツ　ニ：ニュージーランド　フ：フランス　ブ：ブラジル　ホ：ホンコン　マ：マカオ　ロ：ロシア
5）私的場面でも敬語を使う場合もある。特に女性の会話ではそれが見られることもあるが、ここでは割愛した。

参考文献

市川保子（2005）『日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

大塚純子（1995）「中上級日本語学習者の視点表現の発達について―立場試行を中心に―」『言語文化と日本語教育』9. 281-192

金子広幸（2006）『にほんご敬語トレーニング』アスク

木田真理・清水まさ子（2013）「学習者の文法と教師の文法」『日本語学』vol. 32-7 明治書院　50-60

魏　志珍（2010）「台湾人日本語学習者の事態描写における視点の表し方―日本語の熟達度との関連性―」『日本語教育』144 号　133-144

寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版　310

前田直子（2009）「単文で教える文法項目と複文で教える文法項目」エルの会発表資料

山崎　恵（1996）「「～ておく」と「～てある」の関連性について」『日本語教育』88 号 13-24